平成26年度

長岡京市立中学校国際理解教育推進事業

学生交流１０周年記念
米国マサチューセッツ州
アーリントン姉妹都市訪問
報告書

長岡京市立中学校国際理解教育推進協議会

は　じ　め　に

学校教育課総括指導主事
Head Chaperone
大木　義文

４月 25 日から５月５日までの 11 日間、中学生 16 名、高校生５名、引率者５名の計 26 名で、長岡京市の代表として、アーリントンを訪問してきました。

多くの中学校・高等学校の校長先生から、「アーリントンに行った生徒たちはみんな大きく成長して帰ってきたよ。」とお褒めの言葉をいただきました。Head Chaperone として誇らしい限りです。

私は教師をしてきた経験から若者が短期間で、急激に成長する場面をたびたび見てきました。

一定のストレスを感じる困難の中で緊張し、苦しみ、努力する中で達成感のある経験をする。その経験は彼らに大きな自信を与え、その自信は次なる困難に対してもチャレンジする勇気を与えていく。部活で活躍した生徒が学校行事や学習でも輝きを増すのはその典型です。

今回の 21 人それぞれの経験もまた、彼らの急激な成長を引き出す貴重な経験であったに違いありません。

また、私は今回の訪問を通してこんなことも感じています。

うまく言葉が通じない環境の中で何とかコミュニケーションをとろうとした彼らは、しっかりと目を合わせ、表情の変化や声の抑揚、ボディランゲージを駆使してコミュニケーションを図っていました。

一方で彼らや我々を取り巻く環境は携帯・スマホに代表されるソーシャルメディア全盛であり、望む・望まないにかかわらず、アーリントンで行ってきたコミュニケーション方法と正反対のつながりを強いられる世の中です。

そんな時代だからこそ、アナログなコミュニケーションの方法を駆使し、その重要性を感じとってくれたとすれば、本当に価値があることだと思います。

今回の訪問を通して、アーリントンの方々に改めて感謝を申し上げたいと思います。小・中・高等学校での歓迎はもとより、姉妹都市 30 周年記念パーティーやタウンミーティングでの紹介などまちをあげての歓迎をしていただきました。また、桜祭は５年目を迎え、充実した取組となっていました。さらに、ホストファミリーの子どもたちへの懇切丁寧な対応にも頭の下がる思いでありました。

終わりになりましたが、本事業の実施に御支援いただきました関係者の皆様に、心より厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

目　　次

はじめに…… 1

Ⅰ　訪米の部

1　訪問団員名簿…… 4

2　訪問日程…… 5

3　生徒感想文…… 6

4　アーリントンだより……17

Ⅱ　訪日の部

1　訪日団員名簿……44

2　訪日日程……45

3　訪日団生徒挨拶……46

4　アーリントン訪日団友好紀行……48

Ⅲ　学生交流10周年によせて

1　国際理解教育交流指導員のことば……56

2　過去の訪問団参加者のことば……57

Ⅰ　訪米の部

1.　訪問団員名簿

役員・引率者

役職	氏名	備考
団長	大木　義文	長岡京市教育委員会　総括指導主事
引率	松原　昭生	長岡第二中学校　教諭
引率	小川　紀子	長岡京市　訪米団学習会指導員

生徒

学年	氏名	備考
2 年	宮前　りさ	長岡中学校
2 年	大橋　一輝	長岡中学校
3 年	石原　義久	長岡中学校
3 年	森　宇一朗	長岡中学校
3 年	高谷　竜生	長岡中学校
3 年	大前　世鎮	長岡中学校
2 年	カジ　ライハン優一	長岡第二中学校
2 年	廣野　優理奈	長岡第二中学校
3 年	山口　源太	長岡第二中学校
2 年	石角　慧奈	長岡第三中学校
3 年	田西　秀仁	長岡第三中学校
3 年	山内　芽依	長岡第三中学校
3 年	井崎　茜	長岡第三中学校
2 年	山本　朋果	長岡第四中学校
3 年	藤井　美菜	長岡第四中学校
3 年	森脇　黛	長岡第四中学校

高校生訪問団

役職・学年	氏名	備考
団長	飯原　明子	西乙訓高校　英語科教諭
引率	西山　尚幸	西乙訓高校　英語科教諭
2 年	菅井　香名	西乙訓高校
2 年	吉田　旭宏	西乙訓高校
2 年	林田　日菜子	西乙訓高校
2 年	三浦　美湖	西乙訓高校
2 年	小林　葉月	西乙訓高校

2.　訪問日程

日程	時刻	行程
4 月 25 日（金）	12：30 16：45 22：30	中央公民館出発 関西国際空港出発（サンフランシスコにて乗換） ボストン・ローガン空港着後、ホストファミリー宅へ
4 月 26 日（土）		ホストファミリーデー
4 月 27 日（日）	 18:00	ホストファミリーデー 姉妹都市 30 周年記念パーティー参加
4 月 28 日（月）	8:30	ボストン市内見学（フリーダムトレイル、州議事堂、タウンミーティング、プルーデンシャルスカイウォークなど）
4 月 29 日（火）	8:15 13:00 19：00	トンプソン小学校訪問 ハーバード大学見学 レッドソックス試合観戦
4 月 30 日（水）	10:00 13:00	クジラ観測船に乗船（今年度は悪天候により中止） クインシーマーケットにてショッピング
5 月 1 日（木）	8:15 18:00	アーリントン高校訪問 イーグルスレストランにて夕食（アメリカで1番大きいハンバーガー）
5 月 2 日（金）	7:15 18:00 20：00	オトソン中学校訪問 桜まつり参加 ダンスパーティー参加
5 月 3 日（土）	9:00 18:00	レキシントン・コンコードツアー参加 フェアウェルパーティー参加
5 月 4 日（日）	9:00	ボストン・ローガン空港出発（シカゴにて乗換）
5 月 5 日（月）	16：10 19：20 21：00	成田空港到着 伊丹空港到着 長岡京市役所到着

3.　生徒感想文

長岡中学校　２年　宮前　りさ

今回の訪問で、大音量の中、思い思いに踊ったダンスパーティーで、同世代の人達と一緒に一つになれたということが最高の想い出です。その中で、私は改めてアメリカの「大きさ」に気づきました。それは、多くの人種の人々を受け入れて生活をしていることです。一見、当たり前に感じるかもしれませんが、現地の多種多様さは私の想像を遥かに超えていました。実際、私が折り紙を教えた子ども達の中にも、黒人の子どもや日本人の子どもがいました。

学校の授業体験では、言葉と人種の違いから友達になれるか不安だった私に、沢山の人達が積極的に話しかけてくれました。この時、言葉や人種の違いに壁はないと実感し、明るい気持ちで残りの日々を過ごせました。アメリカ人がフレンドリーなのは、多くの人種の人々と生活する中で自分の思いを強く伝える方法を自然に身につけてきた結果だと思います。私も、気持ちを素直に伝え、周りを笑顔に出来たら幸せです。

長岡中学校　２年　大橋　一輝

この旅で一番楽しかったのは、野球観戦や Six Flags に行った事もあるけれど、やはりホストファミリーと過ごした時間でした。一緒に食事をしたり、飼い猫と遊んだり、ホストファミリーの息子のイーサンとゲームをしたことなど、ここには書ききれないことをたくさんしました。その中で驚いたことは、ホストファーザーの仕事場が MIT（マサチューセッツ工科大学）の中にあって水圧やレーザーで物を切っていた事や、日本ではたまにしか見ない地下室や屋根裏部屋があって、その屋根裏部屋の壁紙をホストファーザーが貼り付けている事でした。

次に、寝る時間が早かったことです。日本ではだいたい早くても 10 時ぐらいに布団に入りますが、アーリントンでは 9 時には布団に入っていたことです。

このように、楽しかったことや、驚いたことなど日本との様々な文化の違いを知ることができてよかったと思います。こんな経験ができたのも、学習会の先生達、お父さん、お母さん、ホストファミリーの皆さんのおかげです。本当にこの 10 日間は一生の思い出です。ありがとうございました。

長岡中学校　３年　石原　義久

僕はアーリントンに 10 日間滞在していた中で、たくさんのことを学び感じ取ることが出来ました。

その中でも、一番印象に残っていることは、アメリカの人達がとても親切で優しく接してくれたことです。ホストファミリーも、僕に話すときはわかりやすい英語で話してくれたり、写真を撮ってもらう時でも快く OK と言ってくれたりしました。さらに、僕に話が伝わりにくい時でも、代わりに助けてくれるなど、本当にアメリカの人は親切だなぁと思いました。

このように、僕はアーリントンを訪れて、たくさんのことを感じました。そして、これが終わりではなく始まりだということを胸に刻んで、これからの学校生活を送っていきたいです。引率の先生方には感謝をしています。本当にありがとうございました。

長岡中学校　３年　森　宇一朗

僕が今回のアーリントンの訪問で最も印象に残っていることは、鳴子踊りです。４日間という短い練習時間だったけれど、21 名全員が一致団結して一生懸命頑張れたと思います。そして、一致団結できたことが、この訪問をすばらしいものにした理由の一つだと思います。

また、今回の訪問で自分自身最も頑張ったと思うことは「試す」ことです。大木団長が出発前におっしゃっていたように、僕も「試す」ことの難しさを知りました。しかし、一度失敗してもいいから試してみることで、見えてくるものがたくさんありました。僕は英語があまり得意ではなく、初めはホストファミリーなどに自分の伝えたいことを伝えることができませんでした。しかし、何度も失敗することで、最終的には伝えたいことが伝えられるようになりました。

僕は、今回の訪問で一致団結することのすばらしさ、挑戦する心、失敗を恐れない勇気を知ることができました。

長岡中学校　３年　高谷　竜生

僕が、このアーリントン友好訪問団で一番心に残ったのは、ホストファミリーデーにボウリングに行ったことです。訪問３日目で緊張が解けない日が続いていたけれど、ボウリングというスポーツを通して、言葉は上手く通じないけれど、心が通じ合ったのがうれしかったです。２ゲームして、ホストファミリーの子どもやお父さんがストライクを出したり、お母さんや自分がスペアを出した時は、一緒になって喜べるようになり、徐々にコミュニケーションをとれるようになりました。ボウリングの帰りにお昼ご飯のサンドイッチを買って家で食べている時に、ボウリングが楽しかったとかあの時は惜しかったなと話しているのが楽しく、行ってよかったなと思いました。このホストファミリーデーで、ボウリングへ行ったことは、ホストファミリーとの仲を深めるきっかけとなり、アーリントン友好訪問の一番の思い出となりました。

長岡中学校　３年　大前　世鎮

僕は、このアーリントン訪問プログラムで、様々な新しい体験をすることができました。僕が一番心に残っていることは、日本とアメリカの文化の違いです。アメリカの学校では、授業に iPad を使用して学ぶという、日本とは違った形式になっていました。また、生徒一人一人の個性がとても強く、みんなが自分の意見を積極的に相手に伝えていることにも強い印象を受けました。

その他の様々なプログラムを通して、日本にはないアメリカ独特の雰囲気を感じることができました。特に、ホストファミリーとの生活では、初めは上手くコミュニケーションが取れませんでしたが、徐々に積極的に会話が出来るようになったことがうれしかったです。

訪問中のプログラムを通して、様々な新しい体験や、普段の生活では体験できない繋がりを持つことができ、とても良い経験になったと思います。

長岡第二中学校　２年　カジ　ライハン優一

僕がアーリントンへ行って、感動したことは、ホストファミリーが思っていた以上に優しかったことです。

行く前は、ホストファミリーとは、泊めてもらって食事をもらうだけの人達だと思っていました。その上、アメリカ人は怖いイメージもあったし、日本人のようなおもてなしという風習はないのではないかと思っていました。

しかし、実際に会ってみると、いつも笑顔でとても優しそうな雰囲気でした。共に生活していると、自分が出かけている間にベッドを綺麗にしてくれたり、食事について考えてくれたりと、家族のように接してくれて親身に僕のことを考えてくれて、ホストファミリーのイメージが、がらりと変わりました。

僕は、この経験を通して、もう一度アメリカへ行きたいと思いました。

長岡第二中学校　２年　廣野　優理奈

私は、アーリントンへ行って、アメリカ人が笑顔で人の話を聞こうとしてくれる優しさと、温かい心に感動しました。中でも、私のホストファミリーはとても親切で、スイーツ好きの私が一番食べたいと思っていた、ピーカンパイをサプライズで作ってくれたり、アーリントンを出発する日の前夜に、ボストンが一望できる夜景を見につれて行ってくれたりして、本当の家族のように私と接してくれました。そして最後に、日本に帰りたくないと言っていた私に、「いつでも帰ってきたらいいよ。ここは貴方の家だから。」と言ってくれました。私はこの言葉を聞いた時、とてもうれしく、涙が出そうになるのを必死にこらえました。日本に帰るのは寂しかったけれど、アーリントンで過ごした10 日間は、私にいろいろなことを教えてくれたし、きっと何かに繋がっていくと思います。そして、私にとって最高の宝物になりました。

長岡第二中学校　３年　山口　源太

僕は、初めて外国という全く知らない世界に行きました。そして、「自分から動かないと何も始まらない」という事を、この旅で強く実感しました。そして、自分から行動することで、このアーリントンの生活は変わったと思いました。例えば僕の場合、最初は何を話したらいいかわからなかったけれど、まずとても簡単な質問をしました。すると、自然にみんなと接することができました。

次に、僕がこのアーリントンの生活の中で一番楽しかったことは、「ダンスパーティー」です。理由は、中高生とたくさんふれあえたからです。そして、みんなと楽しく踊り盛り上がりました。

最後に、ホストファミリーはとても僕を大事にしてくれて、僕の大好きなチキンや魚、白ごはんを作ってくれました。僕はそのことがとてもうれしくて、感動しました。最後の日、一緒に映画を見ました。この 10 日間、僕は最高の時を過ごしました。

長岡第三中学校　２年　石角　慧奈

今回、アーリントンで過ごした 10 日間は、私の人生の中で忘れられない、とても素晴らしい貴重な体験となりました。中でも私の心に強く残ったのは、人と人の繋がりです。私は最初、とても不安でした。アーリントンの方達との間には、英語という大きな壁があったからです。しかし、英語があまり上手に伝わらなくても、相手の言葉を聞き取れなくても、ジェスチャーなどを使ってどんどんアーリントンの方達と仲良くなることが出来ました。それから今回一緒に長岡京市からアーリントンに行った皆とも、さらに団結力を深め、歌や鳴子で最高の演技を披露することができました。その時に、アーリントンの方達が、とてもニコニコして手拍子をしてくれて、本当に本当にうれしかったです。言葉が上手く通じなくても、このようにたくさんの人の温かさを感じることができる、ということを 10 日間で学ぶことができました。

最後に今回のプロジェクトに関わっていただいた引率の先生方や関係者の皆様、本当にありがとうございました。

長岡第三中学校　３年　田西　秀仁

僕が一番心に残ったのは、３日目のホストファミリーデーです。僕は、ホストファミリーとボウリングをしました。

僕は、１日目、２日目とホストファミリーに馴染むことができず、あまりしゃべることが出来ませんでした。しかし、この日は誰かがストライクを出せばみんなで褒め、ガーターになってしまうと「Never mind」と言って、お互いを励まし合うことが出来ました。このようにして、３日目にしてようやくホストファミリーとうちとけ、少しずつ話が出来るようになりました。僕はこの日を通して、ホストファミリーと、とても仲良くなりました。

最初は緊張していたホストファミリーとの体験でしたが、実際にやってみると、とても楽しく、帰るときにはホストファミリーと、もっと一緒にいたいと思うようになりました。僕は、ホストファミリーのみなさんの言葉で、大きく成長できました。これをスタートとして、これからの将来にもっともっと活かしていきたいです。

長岡第三中学校　３年　山内　芽依

私がアーリントンに行って、思い出に残ったのは最後のパーティーでのスピーチです。その時、私が一言、一文話すたびに反応を返してくれたことが、とてもうれしく思いました。スピーチを聞いている人が、どういう聞き手でいれば気持ちよくスピーチが出来るのかがわかりました。

そして、スピーチが終わった後も話をしたことのない人が「スピーチよかったよ。」と言ってくれたことが、私にはとても驚きでうれしかったです。

私は、今回の訪問でたくさんのスピーチをしました。その度に、緊張やうれしさを味わえたことが自分にとってとても大きかったと思います。私は、この活動に参加できたことが、自分にとって大きいことだったと日本に帰ってきて改めて思いました。

長岡第三中学校　３年　井崎　茜

私がこのアーリントンでの体験で一番印象に残っているのは、オトソン中学校での一日授業体験です。初めは、英語をしっかり伝えられるか、聞き取れるかなどと、不安でいっぱいでした。しかし、その日まで学んできたコミュニケーション力を精一杯活かすことができ、充実した１日でした。

私はこの 10 日間でアメリカ、日本の両国の素晴らしさを学ぶことが出来ました。例えば、アメリカの人々は困っている時にすぐ助けてくれました。また、いろいろな場所に国旗が飾られていることから、自国に誇りを持っていることが感じられました。日本人は、お互いの笑顔が安らぎを与え、相手を安心させることができる国民性だな、と思いました。

当たり前のことに感謝できるようになったことが、今回の一番成長できた点だと思いました。

長岡第四中学校　２年　山本　朋果

私が、アーリントンへ行って一番印象に残ったことは、鳴子踊りを披露したことと、折り紙を教えてあげたことです。踊り終わった時、見ていたアメリカの人などが口笛を吹きながら拍手をしていたことが、とてもうれしかったからです。特に、30 周年記念パーティーの時は、立って拍手をしてもらって、とても感動しました。その時、「踊ってよかった」と思い、「やりがいがあるな」とも思いました。

折り紙を教えた時は、小学生がうれしそうな顔で「Thank you.」と言ってくれたことがうれしかったです。また、中には折紙を折れる人もいて、ヨットなどを折ってくれたことに、とても驚きました。一緒に折り紙ができて、とても楽しかったです。

私は、このメンバーでアーリントンへ行けて、とても楽しかったです。また、アーリントンで行事に参加したいなと思いました。

長岡第四中学校　３年　藤井　美菜

今回のアーリントン訪問は、私にとって初めての海外訪問でした。日本とアメリカの間に、いったいどんな違いがあるのかと、かなり気を張って行きました。しかし、この10日間で私が感じたのは、思っていたほど私たちの間に違いはない、ということです。言語や文化は違うけど、ホストファミリーと生活している中で、笑ったり泣いたりする場面が似ていました。例えば、ある日私のホストシスターの女の子が号泣した時に、ホストマザーがあやしていた姿は、私の母と妹のようでした。このように、私は、人間と人間との間に大きな差はないと思いました。しかし、言葉が伝わりにくいもどかしさがありました。だから、私はもっと勉強して、また外国に行った時には、もっとコミュニケーションができるようになって友達を増やしたいと思いました。

長岡第四中学校　３年　森脇　黛

私がこの10日間の滞在で一番印象に残っていることは、アメリカ人はみんな「積極的」だったことです。オトソン中学校で、私はホストシスターとペアになって、シャドーイングをしました。数学の授業で問題の答えを挙手して発言するときに、ほとんどの人が手を挙げていました。誰一人、もじもじとして恥ずかしそうな人はいませんでした。また、問題文に専門用語が使われていて、理解できていなかった私に、どんどん話しかけて、ゆっくりわかりやすく意味を教えてくれる人もいました。

それに、桜祭りの後のダンスパーティーの時にも、まったく知らない人が話をしに来て楽しませてくれたり、すれ違っただけなのに、ハイタッチしてくれた人もいました。私も、そのように何事も自分から進んでする「積極的な人」になろうと思いました。

これからも、自分の意見をしっかり持ち、いろいろなことに自分からどんどんチャレンジして、少しずつ前進していきたいと思います。

西乙訓高等学校　２年　菅井　香名

私は、不安と期待を背負って日本を出発しました。しかし、ホストファミリーに会ってからは、不安な気持ちはいつの間にかなくなっていました。最初は、長女のマーガレットと長男のペーターに質問されている英語は、学校で習う文法と違っていて、戸惑いがありました。しかし、そんな時にはホストファーザーとマザーが、私にわかる英語に直してくれて、何度もフォローしてくれました。気が付けば、とても仲良しになり笑いが絶えませんでした。

そして、私が一番印象に残っていることは、鳴子踊りのパフォーマンスです。私達は、計５回の発表をしました。アーリントンの方々はとても感動してくれて、ここまで仲間と一緒に頑張ってきてよかったな、と本当に何度も思いました。皆と一緒だったから頑張れた事がたくさんあります。今回の経験を一つのきっかけにして、世界中の人達と将来繋がっていきたいです。

西乙訓高等学校　２年　吉田　旭宏

今回のアーリントン訪問で一番衝撃を受けたのは、アーリントン高校訪問の時でした。私はアメリカの高校は日本とは違う、と行く前から思っていたのですが、そんな考えを遥かに超える光景がありました。例えば、校内に大きなカフェテリアがあったり、大きな体育館が２つあったり、校舎がびっくりするぐらい大きいなど、すべてがビッグスケールでした。私の高校も素晴らしいですが、それ以上に凄かったです。

また、アメリカの学生にもびっくりしました。私はその日、在校生の前でスピーチをしました。すると、その後たくさんの生徒が私に話しかけてくれました。その後の体育の体験の時にも、たくさんの生徒が気軽に話しかけてくれました。私自身とても嬉しかったです。日本の生徒は、外国人相手だとあまりコミュニケーションをとらないと思います。そして、この訪問で、見て感じたことを伝えてアメリカと日本の良い点を組み合わせれば、もっと素晴らしい事ができると思いました。

西乙訓高等学校　２年　林田　日菜子

笑顔で”Hello” ” Hi”と挨拶するのは、万国共通のコミュニケーション手段、ということを実感しました。言葉も見た目も文化も習慣も違う国の人達と心が通じあったことで、私達は「同じ人間なのだ」と改めて気付かされました。

また、日本の素晴らしさに感動しました。米国では、毎日が刺激的であっという間の10 日間を過ごし、まだ日本に帰りたくないと思っていました。そんな中、帰国してみると、日本のおもてなしの心や、緑の美しさに圧倒されると共に、とても誇らしく思いました。これは、日本人として本当に大切なことだと思います。今回、多くの経験をし、新しい視野を持ち、考え方を吸収しました。同じ人間でも、異なることが多いことも理解したので、「常識」というのは、あってないようなものだと思いました。

このプログラムを通して、ますます米国と日本に興味を持ちました。加えて、私自身がさらに自国について学び、知らない人々に伝えることが出来るようになる必要があります。これからさらに、英語や日本について学び、色々なことに挑戦し、様々なことを経験し、大きな人間になりたいと思います。

西乙訓高等学校　２年　三浦　美湖

今一番心に残っているのは、学校についてです。小学校、中学校、高校、大学と行って、共通して思ったことは、日本の学校よりもかなり大きいということです。学校は、校内で迷ってしまうのではないかという程大きく、それでいて授業と授業の間の短い間に移動しなければなりません。私達みたいに授業が終わってから、ゆっくりして準備をする、ということでは間に合いません。実際、生徒たちはすごい速さで準備をしていました。私も彼らを見習って早く行動しようと思いました。

学校が大きい分、中もかなり充実していて、生徒のロッカーがあったり、校舎に体育館がついていたりして、使いやすいと思いました。新しい学校も古い学校もあったけど、その両方に共通していたのは、たくさんの生徒が、みんな校舎を大切にしている、ということです。私も学校だけでなく色々なものを大切に扱っていこうと思いました。

西乙訓高等学校　２年　小林　葉月

私は、アーリントンに行って貴重な体験をたくさんする事が出来ました。その中で、いろいろな人と出会い感じたことは、現地の人達は「誰にでも挨拶をする」ということです。知っている人はもちろんの事、店の定員さんにまで「Hi!! What's up？」というように挨拶をしていました。これは、言う方も言われる方も気持ちが良いと思うので、現地の人達の明るくフレンドリーな所が出ていて、素敵だと思いました。10 日間の滞在の中で、毎日たくさんのプログラムが組まれていて、１日１日が充実していました。特に、フェンウェイパークツアーとダンスパーティーが楽しかったです。
アーリントンに行けたこと、ホストファミリーに出会えた事は、私にとって大きな経験となり、関係者の方々や家族に感謝の気持ちでいっぱいです。この 10 日間は私にとって忘れられない思い出と経験になりました。

THE ARLINGTON TIMES

出発→サンフランシスコ→到着そして対面

第1号 - 2014年4月25日発

・副市長や各校の先生方、ご家族の言葉を胸に決意を新たに長岡京市を12時30分に出発し、渋滞もなく順調に関西国際空港に到着しました。

・荷物を預けるのに少し時間がかかってしまいましたが、持たせていただいたお弁当も全部お腹の中にいれて、出国ゲートへ。

・トラブルもなく無事に12番ゲートからUNITED航空のUA886便にて16時40分にテイクオフしました。座席は最後尾部分を後ろから三列占めていました。

長岡京市教育委員会発行

・機内食はメインがビーフかチキン。それにサラダとパンとビスケットに飲み物でした。想像していたよりは美味しかったと生徒たちは言ってました。その後は、みんな思い思いに時を過ごしていました。ゲームに読書、映画など・・・。少し気になったのはCAの人たちの陽気な大きな笑い声でした。席が後ろということもあってよく聞こえてきました。ただ気さくな方々で生徒達によく話しかけてくれていました。

・予定時間より少し遅れてサンフランシスコに到着しました。乗り換え時のセキュリティーは思ったよりも厳しく、みんな靴を脱がされ調べられていました。セキュリティーを通った後は一時間近く時間があったのでちょうど現地時間のお昼時でもあり、うどんを食べたりして思い思いに時間を過ごしていました。

・現地時間午後２時(日本時間午前6時)にサンフランシスコを旅立ちました。
ボストン便の中はみなさんお疲れですぐに寝てしまいました。無理もありません。ほとんど徹夜に近い状態でサンフランシスコまで来たのですから。

・現地時間の9時50分にボストン空港に到着しました。

・するとそこには昨年まで長岡京市でALTとして活躍してくれていたジャスティンが待ってくれていました。

・アーリントン公立学校のバスに乗りジャスティンにガイドをしてもらいながらホストファミリーの集合するお家につれていってもらいました。

・到着するとすぐに団員は各ホストファミリーと対面し、間もなく各家庭へ向かっていきました。付き添いの先生方から、「キープスマイル」と言われ、ひきつりながら、笑顔を作っている姿は不安と決意の入り混じった健気な姿でした。

雨のサンフランシスコ

アーリントンのバス

スナップショットあれこれ

シャトルにて

シャトルにて

出発前

出発前

機内にて

機内にて

荷物をピックアップ

THE ARLINGTON TIMES

雨のSix Flags　みんなの力で?　午後晴れる

第2号 - 2014年4月26日発

・昨日の長旅もなんのそのです。元気な表情で全員8時30分にアーリントン高校に集合完了しました。会えば早速、昨晩の対面時の話や今朝の朝食の話に華が咲いていました。

・集合写真を撮った後、黄色いバスに乗りSix Flagsへ出発し、約2時間のバスの旅でした。バス中はみんな元気です。天候はあいにくの雨で、レインコートを着ながらのスタートになりましたが午後2時前には雨もあがり、結果的にお客さんが少ない中でアメリカを代表する絶叫系マシンの遊園地を満喫することができました。

・この日は五つのグループに分かれ高校生がリーダーとなってのグループ活動でした。それぞれのグループは高校生が中学生をうまくまとめ、新たな絆を作っていました。

・生徒たちは帰ってから、明日の夕方までホストファミリーデーです。

長岡京市教育委員会発行

スナップショットあれこれ

長岡京市教育委員会発行

THE ARLINGTON TIMES

ホストファミリーデーと 30th Anniversary Celebration ~歌と踊りにスタンディングオベーション~

第 3 号 - 2014 年 4 月 27 日発

・午後 4 時 30 分に集合するまでは、ホストファミリーデーでした。それぞれの家族と一緒に思い思いの時間を過ごしていたようです。

・それぞれの生徒の行ったところを羅列してみると・・・・

・海、ホストファミリーの子どものサッカーの試合、動物園、水族館、公園、ボウリング、博物館、美術館、科学博物館、ショッピングモール、教会、大学の祭り、ホストファミリーの祖母の家などなど

・ホストファミリーの皆さんに可愛がっていただいてる様子が、行き先を聞いただけでも伝わってきます。ちなみに付き添いのメンバーもそれぞれのホストファミリーと楽しいひと時を過ごしました。

長岡京市教育委員会発行

・さて午後4時30分に集合してまず最初にアーリントンと長岡京市の姉妹都市友好に尽力されましたDick Smithさんの追悼記念イベントに参加しました。

・生徒たちは、話されている内容の理解は不十分だと思いますが、30年の歴史と自分たちの使命は感じ取っていたようです。

・イベントの最後には石製のアーリントンと長岡京市の市章の彫刻がされたベンチの除幕式もありました。

・小雨の中の追悼記念イベントも終わり今回の訪問のメインと言っても良い姉妹都市30周年記念パーティーに参加しました。

・このパーティーは約三百名という人数もさることながら、アーリントンからはセレクトマン、日本からは小田市長や冨岡議長、さらにはボストン領事館の筆頭理事まで参加されていました。

・そこでは日本の「故郷」と英語の「sweet caroline」の2曲を披露し、さらに「鳴子踊り」を披露しました。

法被［はっぴ］を着ての登場から会場の注目を集め、「故郷」の合唱は大きな拍手をいただき、「sweet caroline」では会場が一体となって盛り上がりました。

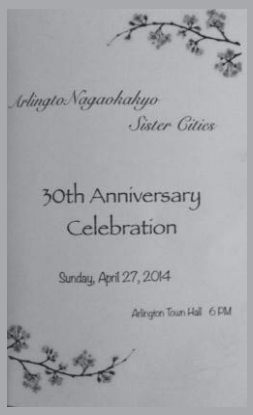
・圧巻は「鳴子踊り」でした。彼等の気迫と情熱と若さに満ち溢れ、感謝と敬愛と使命を抱いて繰り広げた調和の取れた踊りは、観る者すべての心を捉えていました。

・動画がこの紙面に掲載できないことがなんとも残念なのですが、スタンディングオベーションで彼等を讃え、彼等が退場するまでその拍手は鳴り止みませんでした。

演目の説明

スタンディングオベーション

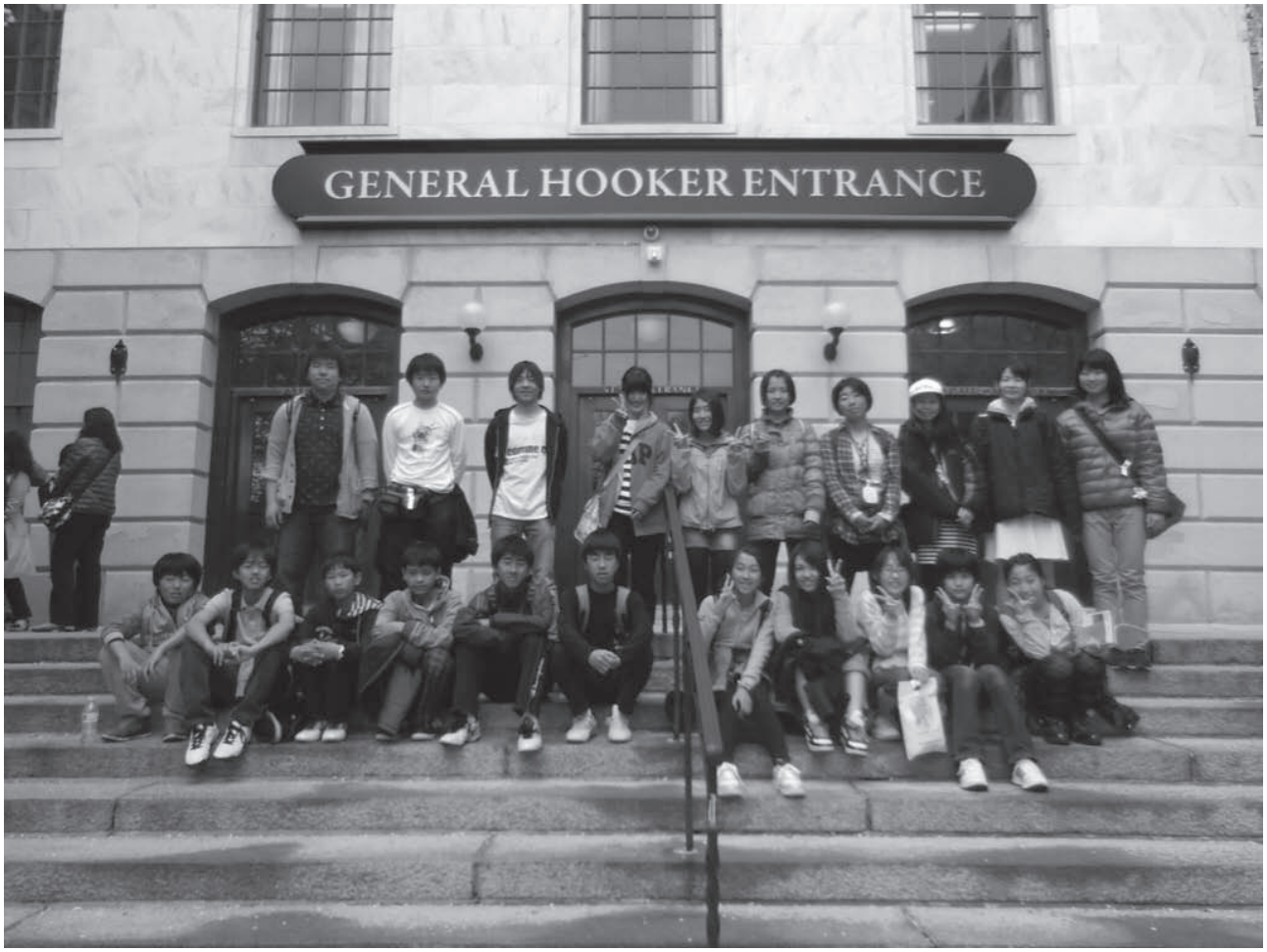
スナップショットあれこれ



THE ARLINGTON TIMES

図書館→フェンウェイパークツアー→州議事堂訪問→ショッピング→合同食事会→タウンミーティング見学

第4号 - 2014年4月28日発



・4日目になると少しこの生活に慣れてきたのか、昨日の充実感がそうさせているのか、集合した時のみんなの顔は晴れやかです。

・今日はまずロビンズ図書館の見学でした。歴史ある図書館の説明を聞いた後、レッドソックスの本拠地フェンウェイパークのツアーへ行きました。レッドソックスの歴史や球場にまつわる様々なエピソードを聞くとともに手に入らない座席やメディア席に座るなどの経験ができました。明日のボールゲームの観戦が一層楽しくなりそうです。

・昼食をはさんで、州議事堂を訪問しました。普通は入れない、上院の議場に入れていただき、写真を撮らせていただきました。その後、1時間ほど時間をもらい思い思いに買い物をしていました。

長岡京市教育委員会発行

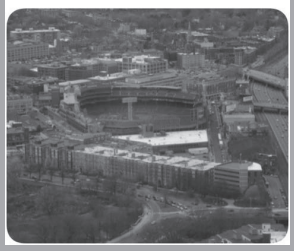
・再集合して訪米団合同交流食事会に参加し、食事後にはタウンミーティングに参加しました。学生団として冒頭に紹介してもらい、大きな拍手を受けていました。

・今回の訪問には教育的な目的だけでなく友好交流大使としての使命もあります。特に今年度のように30周年と重なるとそのことに関する行事が増えます。そのため今年度の生徒たちのスケジュールは、かなり過密です。

スナップショットあれこれ

ボストンマラソンゴール

レッドソックス本拠地



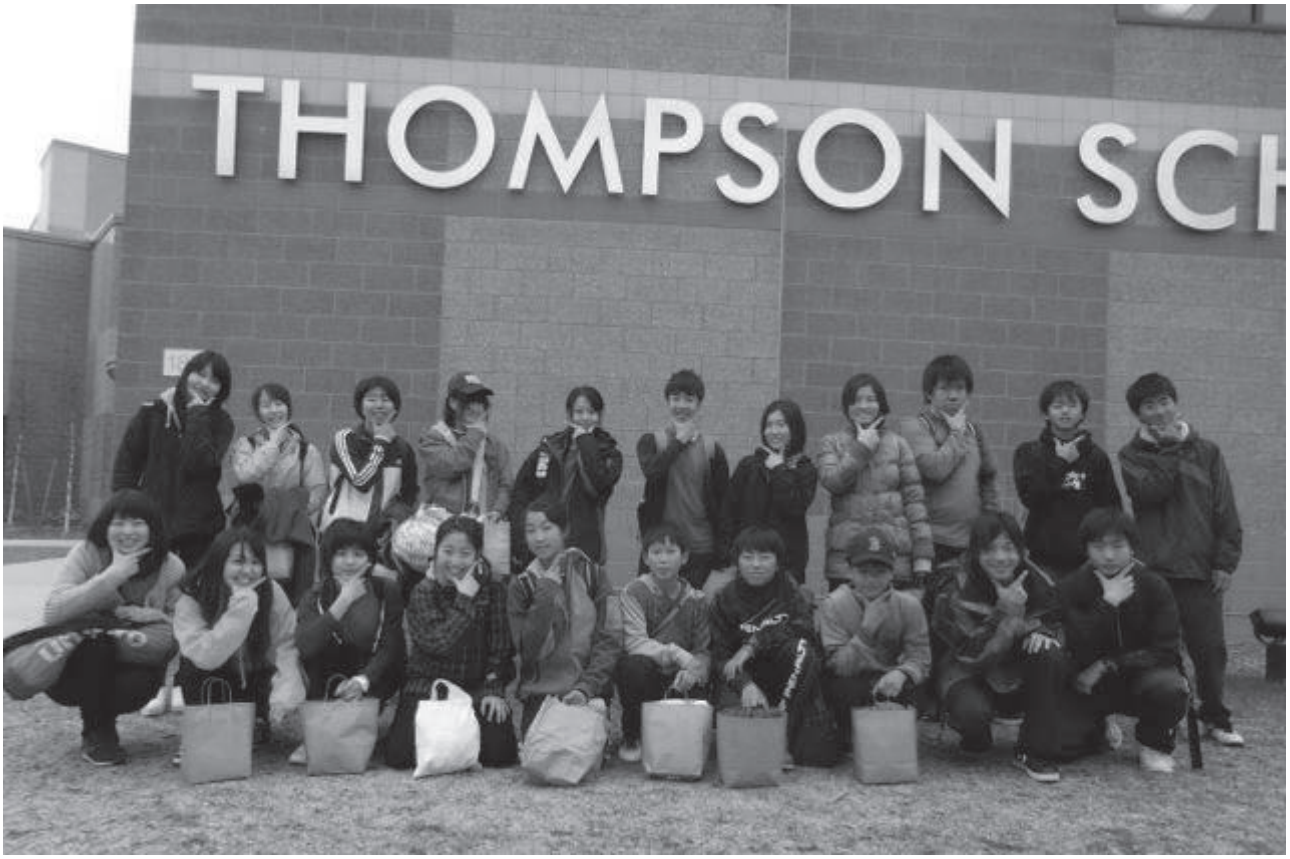
スナップショットあれこれ

長岡京市教育委員会発行

THE ARLINGTON TIMES

小学校訪問→ハーバード大学
→レッドソックス野球観戦

第 5 号 - 2014 年 4 月 29 日発



・歓迎行事もようやく一段落し、今日から学校訪問が始まりました。最初の訪問校はトンプソン小学校です。

・小学生から全員にプレゼントをいただき、歌で歓迎してもらいました。
我々も「故郷」と「sweet caroline」「This land is your land」で歌のお返しをしました。歌の後は鳴子踊りを披露しました。小学生はじっと凝視し、「It's cool」と感嘆の声をあげていました。

・その後は、五年生に連れられて小グループに分かれ校内巡りをしました。

・そして 2･ 3 年生にけん玉、折紙、書道を教える文化交流の時間になりました。

・四つのクラスに分かれ一人一人が数人の小学生を受け持ち教えました。

長岡京市教育委員会発行

・うまく伝わらず電子辞書を片手に冷汗をかきながらのスタートでしたが、徐々にコツを掴み始め、後半には教える方も教えられる方も生き生きとした姿が見られました。

・お昼からは、ハーバード大学およびその周辺を見学し、ハーバード COOP で買い物をしました。誰にあげるのかを考えながら、生徒たちは買う物を選んでいました。

・一旦解散し、1 時間 15 分後に再集合しました。現在のボストンは真冬と言えるほど寒く、夜は本当に冷え込みます。

・再集合した時の服装はみんなたくさんの服を着込み、中にはホストファザーのダウンを着せてもらい、だるまさんのようになっている生徒もいました。しかし、そのような光景からもホストファミリーの愛情が伝わってきます。

・さて、試合観戦ですが 9 回表 2 アウトでドラマが起きました。レッドソックスのピッチャーが打たれ上原浩治の出番が生まれました。生徒達や一緒に来ているホストファミリーの子供達は一斉に「コージ」コールを行いました。

・すると球場のカメラは彼等を捉え、球場の大型スクリーンに映し出されました。引率者やホストファミリーを巻き込んでの大盛り上がりでした。

・上原は三球三振で 6 セーブ目をあげました。

スナップショットあれこれ

長岡京市教育委員会発行

スナップショットあれこれ

THE ARLINGTON TIMES

ホエールウォッチング改めサイエンスミュージアム

第 6 号 - 2014 年 4 月 30 日発

・友好訪問団の日程も、ちょうど中間あたりでしょうか。当初予定していたホエールウォッチングは、あいにくの悪天候のために中止になりました。残念ではありますが、海が荒れていてどうしようもありません。

・ここはポジティブに捉え、連日のハードスケジュールから解放し、少しのんびりと過ごす時間を作ることになりました。

・初めて公共のバスと電車を乗り継ぎ、サイエンスミュージアムに行きました。

・ミュージアムの中でも英語の勉強です。「ライブアニマル」と「ライティング」という二つのライブショーを見て、一生懸命英語を聞き取ろうとしていました。

・その後は買い物の時間が与えられました。多くの生徒は現地のスーパーで手頃なものを探していました。

・今日はアーリントンだよりも少しのんびりなものになりました。

長岡京市教育委員会発行

スナップショットあれこれ

長岡京市教育委員会発行

THE ARLINGTON TIMES

アーリントンハイスクール→イーグルスレストランで夕食

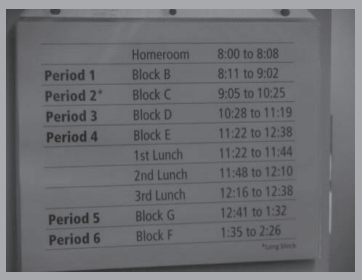
第7号 - 2014年5月01日発

・今日は朝からアーリントン高校を訪問しました。
・まずは、グループに分かれ、アーリントンの高校生に校内を案内してもらいました。
・その後音楽の授業を体験させていただきました、コーラスの授業では三つのパートに分かれパート練習に入れてもらい、全員での合唱にも参加しました。
・短時間で上手くハモれるように、上手に指導してもらい、生徒達も感動していたようです。
・その後歓迎集会に参加しました。そこでは高校生リーダーのアキヒロがスピーチを披露しました。笑いもとって、地元の高校生に思いが伝わったようです。その後は「今日の日はさようなら」「故郷」「sweet caroline」の三曲を披露しました。
・そして我々の最大の見せ場「鳴子踊り」を披露しました。今迄で一番広いステージでのびのびと発表でき、大きな拍手に包まれました。

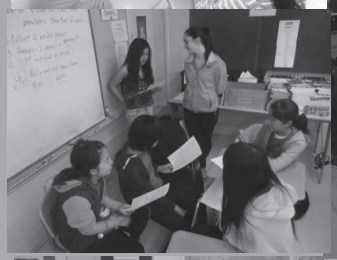
長岡京市教育委員会発行

・そのあとは校内のカフェテリアでランチをいただきました。
・ランチの後は体育に参加しました。ロッククライミングの授業で初めての経験でした。みんな楽しそうです。多くの先生方や生徒達がサポートしてくれていました。
・最後に英語の授業に参加しました。小グループに分かれ、英語の質問に受け答えしていました。また、アーリントンの高校生には日本語を教えたりもしました。
・今回の高校訪問ではジャスティン先生に大変お世話になりました。
・今日の最後はジャスティン先生に、お薦めのハンバーガーショップへ連れて行ってもらいました。
・バンズの間にハンバーグが10枚挟まった非常に高さのあるハンバーガーをみんなで分けて食べました。
・ジャスティン先生本当にありがとうございました。

スナップショットあれこれ



スナップショットあれこれ



長岡京市教育委員会発行

THE ARLINGTON TIMES

オトソン中学校→桜まつり

第 8 号 - 2014 年 5 月 02 日発

・こちらでの生活もあとわずかです。

・今日はオトソン中学校を訪問しました。7:15 の集合です。いつもより一時間早く集合しましたが、その理由は、中学校のカフェテリアで朝食を食べるためです。日本では、聞き慣れませんが、こちらでは希望すれば、学校で朝食が取れます。

・ベーグル、フルーツ、ヨーグルト、オレンジジュースといったものが並べてありました。みんなで美味しくいただきました。

・そのあとオープニングセレモニーがあり、ヒデトとメイが立派にスピーチを行いました。

・また、全員に校長先生からプレゼントをいただきました。

・この後はオトソン中学校の生徒とペアを組み、その生徒の授業に一緒に入り、他の訪問団員のいない中で授業を受けることを行いました。かなり過酷な挑戦だったと思います。みんなさすがに、疲れた顔をして戻ってきました。

長岡京市教育委員会発行

・今日がホストファミリーに手料理を振舞える最後のチャンスです。それぞれ簡単なものを作ったようです。

・夕方からは桜祭りに参加しました。これが最後のパフォーマンスとなります。

・日本の曲を二曲と英語の曲を三曲歌いました。そして最後はいつものように鳴子踊りです。気合い十分で構えたのですが、放送トラブルが起こりました。出鼻をくじかれた格好です。

・集団の本当の力はこういう時にわかります。口々に「never mind」「sorry」「forget it」と叫び、気持ちを切らずに踊り始めました。一人一人の演技から「これが最後のパフォーマンスだ。」という強い強い思いが感じられました。

・桜祭りの最後に、女子は浴衣に着替え、男子は法被のまま、長岡京音頭を踊りました。

・桜祭りの後は、ダンスパーティーです。汗だくになって、踊っていました。人気者になっていた生徒もいたようです。

スナップショットあれこれ

スナップショットあれこれ

THE ARLINGTON TIMES

レキシントン・ コンコード巡り(バスと自転車)→ フェアウェルパーティ

第 9 号 - 2014 年 5 月 03 日発

・こちらでの生活も実質的には最終日となりました。

・今日は昨日のダンスパーティーの配慮もあり、少し遅めに集合して、レキシントン・ コンコードをバスと自転車でまわりました。

・ここはアメリカ独立戦争のきっかけとなった戦いが行われた場所です。

・まず始めに、ウィルソンファームに行きました。そのあと南北戦争にゆかりのある所をバスでめぐりました。

・その後、バスの中で昼食を取り、バイクツアーを行いました。

・独立戦争当時の話を聞き、春らしい風を切りながら走る自転車はなかなかのものです。生徒達も楽しそうにサイクリングをしていました。

・サイクリング終了後バスで帰るまで少し時間がありました。生徒達はともに過ごす残り時間が惜しいのでしょうか。誰ともなく集まり「だるまさんが転んだ」

長岡京市教育委員会発行

をしていました。見ている付き添いのものもそうですが、生徒達も最終日は感慨深いものを感じていたのではないでしょうか。

・夕方からはフェアウェルパーティが行われました。ホストファミリーが一同に会し食べ物を持ち寄ってのパーティです。このようなホームパーティも初体験です。アメリカの大きな家の庭でともに過ごした仲間とお世話になったホストファミリーと過ごすパーティーは他の公式行事とは違う暖かさと優しさを感じました。

・パーティの終盤、長岡京音頭を踊っている際に雨が降ってしまいましたが、生徒達は別れを惜しみ遅くまで写真を取り合っていました。

スナップショットあれこれ

スナップショットあれこれ

Ⅱ　訪日の部

1.　訪日団員名簿

氏　　名	
Aaron Seibring	アーロン・シーブリング
Alana Colety	アラナ・コルティ
Bridget Gills	ブリジット・ギリス
Caleb Snyder-Decesare	ケレブ・スナイダー・ディセゼル
Cormac Paterson	コルマック・パターソン
Galen Hall	ゲレン・ホール
Hannah Alton	ハナ・アルトン
India Tonkin	インディア・トンキン
James Bauer	ジェームズ・バウアー
Janae Vellere	ジャネー・ヴェレーレ
Julia Zak	ジュリア・ザック
Liam Watson	リアム・ワトソン
Lilah Vieweg	ライラ・ヴューエグ
Maia Driggers	マヤ・ドリガーズ
Margaret Gillis	マーガレット・ギリス
Samantha Gentle	サマンサ・ジェントル
Rebecca Bradley	レベッカ・ブラッドリー（引率）
Justin Bourassa	ジャスティン・ボラッサ（引率）

2.　訪日日程

日程	時刻	行程
7月2日(水)	19:55 21:00	伊丹空港到着 市役所到着、ホストファミリーお迎え
7月3日(木)	8:30 16:00 17:00	市役所正面玄関集合、京都市内見学へ出発（清水寺、春光院） 市役所正面玄関到着 ホストファミリーと帰宅
7月4日(金)	9:00 16：00 17：00	市役所正面玄関集合、長岡京市内等見学へ出発（善峰寺、勝龍寺、長岡天満宮） 市役所にて市長表敬訪問 ホストファミリーと帰宅
7月5日(土)		ホストファミリーデー　神戸観光（自由参加）
7月6日(日)		ホストファミリーデー
7月7日(月)	8：30 17：00	長岡第四中学校集合　授業体験と文化交流 ホストファミリーと帰宅
7月8日(火)	8：20 13：30 20：00	長岡第八小学校集合　授業体験と文化交流 大阪市内見学 ホストファミリーと帰宅
7月9日(水)	8:45 17:00	JR長岡京駅集合、伏見稲荷と奈良見学へ出発 ホストファミリーと帰宅
7月10日(木)	8:30 17：00	西乙訓高校集合　授業体験と文化交流 ホストファミリーと帰宅
7月11日(金)	8：30 14：00 18：30 21：00	市役所集合、太秦映画村へ出発 乙訓高校にて水球体験 お別れパーティー ホストファミリーと帰宅
7月12日(土)		ホストファミリーデー
7月13日(日)	5：30 8：10	中央公民館出発 伊丹空港出発

3. 訪日団生徒挨拶

Speech by Mr. James Bauer
生徒代表ジェームズ・バウアーの挨拶

I am one of the two student leaders on our trip here to Nagaokakyo. We want to sincerely thank you for being kind hosts and welcoming us into Japan and Japanese culture.
私は、長岡京市訪問団のリーダーの一人です。私たちを親切に受け入れ、日本と日本文化に招いていただいたことに心から感謝いたします。

We have greatly enjoyed our time in Japan so far and we cannot wait to see more beautiful places, meet more kind people, and experience more aspects of Japan for ourselves.
私たちは、日本で本当に楽しく過ごさせていただいています。これからも、さらに美しい場所を訪れ、親切な人々に出会い、日本が見せてくれる様々な姿や表情を体験することを、とても楽しみにしています。

Finally, on behalf of all of the town of Arlington, domo arigato gozaimasu.
最後に、アーリントンを代表して、お礼を申し上げます。

Speech by Ms. Lilah Vieweg
生徒代表ライラ・ヴューエグの挨拶

My name is Lilah Vieweg and I live in Arlington Massachusetts. In Arlington, it is very hot, and summer vacation has already begun.
私の名前は、ライラ・ヴューエグです。マサチューセッツ州アーリントンに住んでいます。アーリントンはとても暑く、既に夏休みに入っています。

I know that here in Nagaokakyo it is normally very hot, and school is still in session. I have already learned so much about Japan. For instance, in Japan vending machines are colorful and unique, in the united states, they are the same, and very boring!
ここ長岡京市も、毎年夏は暑くなるものの、まだ学期中であることを知りました。私は、日本についてたくさんの事を既に学びました。例えば、日本の自動販売機は色鮮やかで多種多様ですが、アメリカのものはみんな同じで面白くありません。

Also, in Japan, everything is very clean and people are very polite and generous. There are many things that Arlington could learn from Nagaokakyo, and the sister city relationship is a great way to learn about other ways of life.
また、日本はどこも清潔で、人々は礼儀正しく親切です。アーリントンが長岡京から学ばなくてはならないことはたくさんあります。そして、この姉妹都市交換プログラムは、異なった生活様式を学ぶ素晴らしい機会だと思います。

Thank you for welcoming us to your beautiful city, we are very happy to be here!
Arigato gozaimasu!
この美しい町に私たちを迎えていただき、どうもありがとうございます。日本に来ることができて、私たちは本当に幸せです。

アーリントン訪日団　友好紀行

長岡京市教育委員会　教育部　学校教育課　No. 1

★★今日の主なプログラム　July 2-3 2014★★

大阪空港到着、清水寺、春光院

Arrival (Osaka Airport), Kiyomizu-dera, Syunkoin

市役所に到着。待ちに待った相手との対面です。

Waiting for the visitors!

15 時間の長旅を終え、疲れ切った様子でした。

Finally meeting the host families!

清水の舞台で集合写真を撮りました。

Kiyomizu Temple is one of Kyoto's finest !

音羽の滝で、願いを込めて…

Drinking to health, wisdom and beauty!

初めてのお買いもの。

Our first chance to go shopping!

春光院で禅体験をしました。

Learning Zen meditation from a pro!

アーリントン訪日団　友好紀行

長岡京市教育委員会　教育部　学校教育課　No. 2

★★今日の主なプログラム　July 4 2014★★

善峯寺、勝龍寺、回転寿司、長岡天満宮

Yoshimine-dera, Syoryuji, Sushi Train, Nagaokatenmangu Shrine

善峯寺を探検しました。

Exploring Yoshimine Temple!

勝龍寺で仏教の勉強をしました。

Learning about Buddhism at Syoryuji!

写経が上手くできたかな。

Practicing Syakyo (Buddhist scripture)

生まれて初めての回転寿司。

All aboard the sushi train!

長岡天満宮で、参拝前に手を清めました。

Purifying before entering Tenmangu!

市長表敬訪問で、生徒代表としてスピーチ！

James' speech at the mayor's office!

アーリントン訪日団　友好紀行

長岡京市教育委員会　教育部　学校教育課　No. 3

★★今日の主なプログラム　July ５＆７ 2014★★

神戸観光、長岡第四中学校

Kobe, Nagaoka Junior High School No.4

神戸の南京町を探検しました。

Visiting Kobe's world famous Chinatown!

ポートタワーで、記念撮影！

Americans in Meriken (Park)!

みんなで YMCA を歌いました。

It's fun to stay at the YMCA!

生まれて初めての、浴衣着付け体験！

Trying on traditional summer kimonos!

一年生と一緒に、ソフトバレーボール大会！

Our seventh grade friends!

クラブ活動で、剣道体験をしました。

Learning the way of the sword at Kendo!

アーリントン訪日団　友好紀行

長岡京市教育委員会　教育部　学校教育課　No. 4

★★今日の主なプログラム　July 8 2014★★

長岡第八小学校、大阪観光

Nagaoka Elementary School No.8, Osaka

英語の授業で先生のお手伝い！

Maia helps teaching English!

全校集会で、歌を披露しました。

Singing with our friends!

ドッジボールでたくさんの友達を見つけました。

You can't dodge making new friends!

道頓堀のグリコの前で、グリコポーズ！

Seeing the sights in Dotonbori (Osaka)!

大阪のお好み焼きを堪能しました。

Okonomiyaki is "OK" by us!

スカイビル空中庭園の夕日が綺麗でした。

Sunset from the Floating Garden!

アーリントン訪日団　友好紀行

長岡京市教育委員会　教育部　学校教育課　No. 5

★★今日の主なプログラム　July ９＆１０ 2014★★

伏見稲荷大社、奈良見学、西乙訓高校

Fushimiinari Taisha, Nara City, Nishiotokuni High School

伏見稲荷大社の大鳥居に圧倒されました。

Learning about Japanese his-*torii!*

大仏の鼻の穴、通り抜け成功！

Boogey-ing through the Buddha's nose!

鹿と何やら相談中のようです。

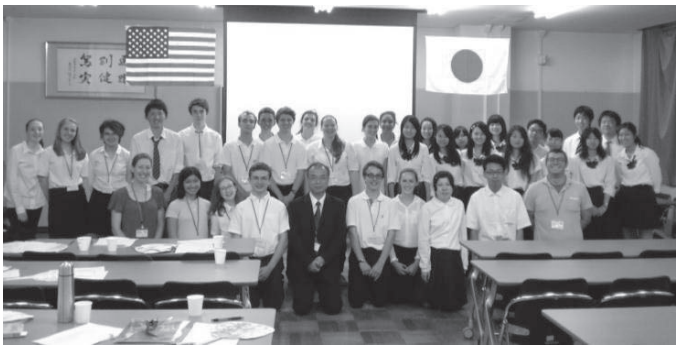
Nara City is a place that's *deer* to our hearts!

工芸の授業で、団扇を作りました。

We're big *fans* of art class at the high school!

クラスのみんなと、記念撮影！

We sup-*pose* we'll take some group photos!



西乙訓高校の生徒たちと、別れと惜しみました。

Commemorating a wonderful day together!

アーリントン訪日団　友好紀行

長岡京市教育委員会　教育部　学校教育課　No. 6

★★今日の主なプログラム　July 11 2014★★

太秦映画村、乙訓高校、さよならパーティー

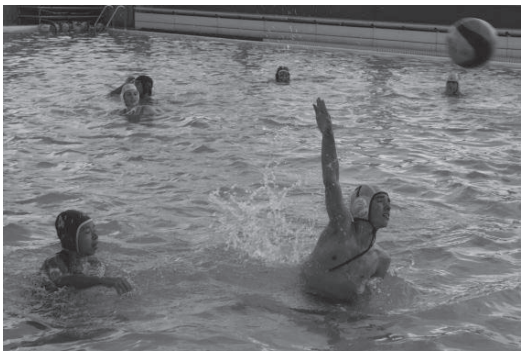
Uzumasa Movie Park, Water polo at Otokuni High School, Farewell Party

映画村で、忍者に変身！

Becoming (ninja) stars at the movie park!

お侍さんと、一枚！

Meeting the star of the show!

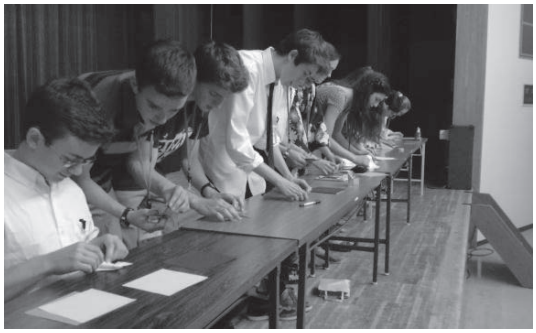


乙訓高校で、水球体験をしました。

Hai, I have the ball!

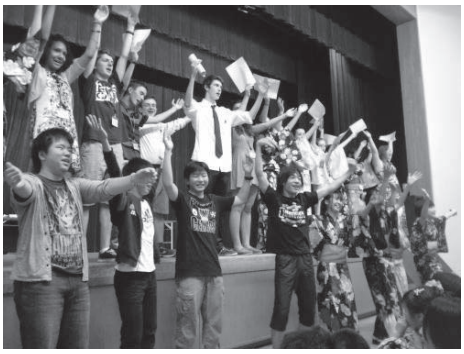
この筋肉、見てください！

“VERY MUSCLE!”



さよならパーティーで、折り紙コンテスト中！

The Origami contest unfolds!



皆で歌ったYMCA、Country roads、ふるさと。

Ready to return to our *Furusato*: take us home, country roads!

Ⅲ　学生交流１０周年によせて

国際理解教育交流指導員
遠山　園栄

Take Wings!

この冊子の編集のため、過去 10 年間のアーリントン訪問団参加者に原稿作成を依頼し、返ってきた彼らの原稿を読んでいると、私の過去が大きくオーバーラップしてきました。ようやく社会人としての一歩を踏み出した第一期生の足取りは、私自身が中学３年生の時初めてアメリカへ行って感じた思いから、自分の「やりたいこと」をつかむまでの、私の人生の縮図のようでした。言葉が全く通じないことが悔しくて、もっと英語を勉強していつかもう一度アメリカに行ってリベンジするんだと心に決めた中学３年生の夏。結局、勉強としての英語はずっと苦手のままでしたが、世界を旅したい、違う国の文化に触れてみたい、知らない人たちと出会い、生まれて初めて見る風景に感動し、世界を見続けていられる仕事をしたい。そんな思いがいつも私の中にあふれていました。

この 10 年間、たくさんの中高生がアーリントンを訪れ、現地の人々の暖かい心に触れて感動し、自分の将来を考える大きなチャンスに出会うことができました。この経験が、自分に直接影響を与えているのかどうかは、今はまだわからないと思います。これから 10 年、20 年と色々な選択肢に出会いながら、自分のやりたいこと、自分だけにしかできない生き方を探し続けてほしいと思います。

私にとって、このアーリントン学生交流は人生で一番やりがいがあり、最高に楽しく取り組める事業でした。この 10 年間で、国内外にたくさんの友達ができました。どんなに遠くに離れていても、言葉や習慣が違っていても、家族のように信頼できる人間関係が作れることを知りました。また、この事業を通して成長していく生徒たちの姿が、なによりも私の「仕事」へのご褒美でした。こんな素晴らしいライフワークに出会えて、本当に私は幸せです。

与えられるだけの学生時代を卒業し、一人で生きていく社会に出てからは「今が一番幸せ！」だと、いつも感じながら生きてきました。そして、やはり今でも「今の自分が一番幸せ」です。

「今の自分が一番幸せ」だと、いくつになっても感じられる人生を歩んでください。

そして、20 年後、30 年後のみんなに・・・また会いたい！

2.　過去の訪問団参加者のことば

平成 17 年度　訪問団参加
大阪大学外国語学部卒業　今井　奈津美

訪問を通して、私は日本の外にも目を向けるようになりました。また、海外の人とも分かりあえるということを教わりました。

見るもの全てが新鮮で、ホームステイ先で「水が欲しい」と伝えるだけでも緊張した、そんなことを10 年たった今でもふと思いだします。そんな中でも日本という島国を出ると、こんなにも文化や考え方の違う人がいることを実感しました。

訪問後、もっともっと違う文化に触れたいと、国際文化について学習する高校に進学。そしてそれからも海外への感心は尽きず大阪大学外国語学部に入学し、フィリピンに 1 年間留学もしました。海外について勉強したいと思うきっかけとなったのは、中学生という多感な時期に様々な経験をさせてくれたアーリントン訪問です。アーリントン訪問があったからこそ、現在でも海外に興味があり、世界に目を向けて物事を考えようとする人、国を超えて人と仲良くなれる人で在りたいと思えています。

平成 17 年度　訪問団参加
トップツアー株式会社勤務　平田　梨沙

運良く抽選に当たり、アーリントン交換留学への参加が決まった私は、『初めて海外に行ける！すごく楽しみ！』というそんな軽い気持ちでいました。ですが、実際現地に行ってみるとコミュニケーションが思うように取れないことの悔しさと、自分の英語力の無さを痛感することになりました。

日本に帰国してからは、「海外の人達とコミュニケーションがとれるようになる」という目標を立て、英語の勉強に力を入れました。アーリントン交換留学で経験した悔しさをバネに、高校・大学は英語を専門に勉強しました。現在は、語学力を生かし旅行会社で働いています。

アーリントン交換留学に参加し、異文化体験だけでなくコミュニケーションがとれることの大切さを学びました。

平成 17 年度　訪問団参加
小学校教員　若宮　健治

私は今、小学校の教師一年目です。一期生として、中学校２年生の時にアーリントンに行きました。一週間のホームステイで、英語を話せないながらにもコミュニケーションの難しさや楽しさを知り、また日本との違いを感じました。他国の人と触れ合う楽しさをまた味わいたいと思い、大学生の時には、大学のプログラムの一環で台湾やタイに行き、その国の素晴らしさを感じました。機会があれば、是非またアーリントンに行ってみたいです。

平成 18 年度　訪問団参加
上智大学４回生　角田　菜穂子

私にとってこの姉妹都市交流は、私の人生の指針を決めた、今までの中で最も忘れられない経験でした。中学生の時の使節団に参加させていただいたのを皮切りに、高校生の時は１年間の留学を経験させていただき、この２つの経験で私はその後の自分の進む道を決めました。上智大学では、英語を専攻として学び、それを通してたくさんの人々や経験に出会うことができました。また、卒業後の進路も全世界の人たちと仕事をしていく道を選びました。

初めは学校の科目のひとつ、くらいでしか捉えていなかった英語が、アーリントンの人たちやこの姉妹都市プログラムと出会ったことで、実は世界の人々と話すことができるツールであるということに気付かされ、また世界の人たちと話し、異文化にふれる喜びを教えてくれました。

アーリントン市と長岡京市の交流は、私にとってこれからの人生でも忘れられない、私の進むべき道を決めてくれたかけがえのない経験です。

平成 18 年度　訪問団参加
同志社女子大学４回生　永田　衣里

海外旅行者が増えている世の中ですが、いまだ中学２年生という若さで海外に行くことはなかなか稀なことです。ましてや親が同伴しないということは、旅行感覚とも全く違うということです。その中でホストファミリーと一緒に時間を過ごし、日本の文化を伝え、むこうの文化を知ることができたという経験は、今でも私の記憶に強く残っています。

そうした経験が次はもっと自分の言葉で自分の伝えたいことを伝え、かつもっと新しい文化を異国から吸収してきたいという思いにつながり、私は大学で１年間留学することにしました。現在は留学も終えて、日本でホテルのアルバイトをしながら残りの大学生活を謳歌しています。ホテルでは外国人のスタッフやお客様も多く、深い信頼関係を作るためには会話することだけでなくお互いの文化を理解し受け入れることがすごく大切です。これに関して、私はアーリントンから始まった海外文化との触れ合いが、こういった重要性を教えてくれたのではないかと思います。

平成 18 年度　訪問団参加
リコージャパン株式会社勤務　四手井　春菜

このプログラムに参加する前は海外には全く興味がなく、親に勧められて参加したのですが、参加して人生が変わりました。当時の私は人見知りで相手の意見に合わせるということが多かったのですが、アメリカでのホームステイではそうはいきませんでした。自分の意見を言葉にしないと相手は自分を理解してくれないという環境で、私は 10 日間で積極性を得ました。また、このプログラムがきっかけで外国に関心を持つようになり、学生時代は学部内の国際化プログラムに参加し、海外の大学で何度もプレゼンテーションをしました。そしてこのプログラムで得た積極性を生かし、現在は外国にも拠点のある会社の営業職として、男性社員の多い職場で彼らに負けないくらいバリバリ働いています。このプログラムがなければたくさんの人との出会いを逃していたし、今の様に自ら行動できる私はなかったと思います。このプログラムを実現して下さったみなさん、市の方々に感謝しています。そしてこれからも、私のようなたくさんの後輩を持てることを楽しみにしています。

平成 18 年度　訪問団参加
滋賀医科大学３回生　久松　香織

私は８年前に姉妹都市であるアーリントンへ行きました。今年で 10 周年と聞き、時代の流れを感じるものです。現在は、看護師になるべく大学生をしています。部活は大学に入ってから琵琶湖でヨットをしています。

アーリントンでホームステイするまでは、海外に行った経験はありませんでした。英語が好きでも得意でもなかったのですが、こんな機会は滅多に無いだろうと思い、応募したのがきっかけでした。不安はたくさんありましたが、ホストファミリーはいい人たちで、本当に良くしてもらいました。２週間足らずで内容が濃く、思い出に残る経験がいっぱいできました。

今はもう、ホストファミリーとも連絡をとっていませんが、その友だちやアーリントンからの留学生が来た時は、アーリントンでの貴重なショートステイをさせてもらったように、長岡京や京都で貴重な経験をしてもらう、お手伝いができればいいなと思っています。

平成 18 年度　訪問団参加
日本電産株式会社勤務　室園　清音

アーリントン高校への１年留学から早くも５年が経とうとしています。ほとんど好奇心だけで決めた留学だっただけに、初めは勉強について行けず、辛い思いをした時期もありました。しかし留学した１年は、私の今までの人生において、最も重要な時間です。英語はもちろんのこと、コミュニケーションや人との繋がりの大切さなど、数え切れない程様々なことを学びました。さらに、日本文化の面白さに気付くきっかけとなり、大学時代は老舗料亭でアルバイトをし、日本文化について進んで学びました。特に、海外からいらっしゃるお客様には、留学で得た英語力を活かし、四季折々の日本の魅力を伝えることができました。そして、今年の春、大学を卒業し就職しました。念願叶って、世界でも活躍するグローバル企業で働いています。今年３月、１人でアーリントンを訪れました。当時お世話になったホストファミリーは、５年前と変わらず、家族同様に温かく迎えてくださいました。留学していた当時を思い出すと同時に、改めて人との繋がりの大切さを実感しました。これからも、この繋がりが切れてしまわないよう、アーリントンを訪れ続けます。

平成 19 年度　訪問団参加
奈良女子大学４回生　宮脇　咲

私は初年度からホストファミリーを３回行い、2007 年にアーリントンを訪問しました。初年度の 2005 年に私は中学に入学し、英語を学び始めました。それまで、ほとんど英語に触れた経験がなかったため、苦手意識もあり、初めての中間テストではアルファベットを順に書くこともできませんでした。そんな時にホストファミリーになることが決まりましたが、内心はあまり受け入れに前向きではありませんでした。しかし彼らと接することで英語を身近に感じられるようになり、苦手意識も気が付けば無くなり、何よりも学ぶ意欲も向上したように思います。そして自分も訪問したいと感じ、３年生の時に訪れる機会をいただきました。訪問までの半年間、コミュニケーションをとるための英語をたくさん教えていただきました。皆で一緒に頑張ることで難しいことも乗り切れましたし、教えていただいことが本当に自信になりました。英語を好きになるきっかけとなった機会を与えて頂いたことに感謝しています。

平成 19 年度　訪問団参加
関西学院大学４回生　山本　理奈

中学生の時に参加したアーリントン訪問、高校生でのアーリントン高校への１年留学は、それ以降の私の人生を大きく変え、また今後の自分の軸となりました。

振り返ってみると、日本での高校生活を丸一年失ってしまった事は、大学受験においても自分にとっても非常にリスクがありました。しかし、中学生の時に初めて日本を飛び出し、アメリカで見て聞いたことが自分自信に大きな衝撃を与えたことに間違いはありません。当時感じた人とコミュニケーションが出来ない“自分の無力感”をどうにか克服したい、もっともっと世界を見てみたいという思いが高校留学に繋がり、同時に今後自分がどうしたいかをしっかり見極めることができ、日本からアメリカ、そして世界に目を向けることに興味を持つきっかけとなったと思います。英語は“ツール”。そう感じたことも留学から得たことの一つです。話すことは簡単ですが、話の中身、つまり様々な知識がないと深い話は出来ません。大学では英語の更なる強化と同時に、あらゆる分野の知識を深め、今度は英語をツールとしてどこまで活かし挑戦出来るかを念頭に、様々なことにチャレンジしました。そして、留学当初から興味を持っていた国際問題に対し、世界では何が起こり、日々の様々な問題をどのように捉え、解決に導こうとしているのかを実際に見てみたいと考え、国連本部への研修参加に繋がりました。
中学から大学まで、そして今後もアーリントンでの経験が私の全てであり、これから歩む人生の原動力です。

平成 19 年度　訪問団参加
京都文教大学３回生　坂口　友佳

私は、８年前に米国マサチューセッツ州アーリントン姉妹都市訪問団員の一員としてアーリントンを訪れました。

私の中で外国とはすごく遠い存在であり、憧れでもありました。実際に、アメリカを訪れたことにより、その国の素晴らしさを知ると共に、自国の良さを再認識することが出来ました。それと同時に、もっと他の国にも行き、日本とは違う文化に触れてみたくなりました。アメリカ訪問後も何度か海外に行きました。訪問団員としてアメリカを訪れたことで、今まで遠く感じていた外国を近く感じることが出来ました。

また、ホストファミリーとして訪問団員を受け入れることで、刺激もたくさん受けました。私がアメリカに行った時にホストファミリーだった女の子を、今度は私が日本でホストファミリーとして受け入れました。私がアメリカに行った時は、彼女は日本語が全然喋れなかったのに、日常会話ができる程になっていることに衝撃を受けました。彼女のそんな姿を見た時私は、『経験』だけでなく『成果』を残すことの重要さに気付かされました。アーリントンを訪問した経験は訪問から８年経った今でも私にとって良い刺激となっています。これからも、更に両都市の絆が深まることを願っています。

平成 19 年度　訪問団参加
立命館大学４回生　山﨑　真里菜

私は平成１９年度に友好訪問使節団の一員として、アーリントンを訪れました。アーリントン訪問団に応募した理由は、母に勧められたからでした。数名だけが一人でホームステイすることになり、私もそのうちの一人でした。そのため、大きな不安を抱えての出発となりました。

現地ではホストファミリーが温かく迎え入れてくれ、まるで私が家族の一員になったかのように接してくれました。たくさんの人々と交流し、様々な体験を経て、私の価値観は 10 日間で大きく変化しました。

それからというもの、私は言語だけではなく、北米の文化や歴史に興味を抱き、大学で研究を続けています。大学２回生の夏に再びボストンを訪れ、ホストファミリーや現地の友達と再会することができ、とても感動したことを覚えています。

現在の私は、将来の進路について考えつつ、卒業論文の制作に取りかかっています。あの 10 日間で得たものはとても大きく、その経験を大切に、将来につなげたいと思います。

平成 20 年度　訪問団参加
東京大学１回生　齊藤　大哲

私はアーリントンでの体験を経て、国際社会で活躍できる人間になるための第一歩を踏み出せたと思っています。最も大きかったのはコミュニケーションに対する意識が変わったことです。日本人は伝統的に以心伝心を好みますが、アーリントンでは黙っていると何も伝わらず、何もできません。事前に色々と準備していたとはいえ、そのような環境に放り込まれ最初は戸惑いましたが、すぐに必要に迫られ、拙い英語と身振り手振りで自分の意思を何とか伝えようとするようになり、帰国する頃には自分の意思を伝えることに抵抗を感じなくなりました。自分の考えを伝えてこそのコミュニケーションだという意識は、国際社会の常識ですが、日本では身に付けにくいものだと思います。他にも、当時から国際社会で活躍したいと考えていた私は、現地の学生の積極的な学習態度と自身の学習態度を比較して危機感を抱いたことで、勉強にも熱が入るようになりました。東京大学に入学した現在も、留学を見据えながら勉学に励んでいます。アーリントンに行けたことで私は成長しました。ぜひこの素晴らしい機会を後輩達にも与えていただきたいと思います。

平成 20 年度　訪問団参加
信州大学３回生　八木　俊充

この度は、米国マサチューセッツ州アーリントンとの学生交流事業 10 周年おめでとうございます。

思えば、私が訪問団員としてアーリントンを訪れてからもう６年の歳月が流れました。当時中学３年生だった私にとって、海外での暮らしや文化に触れる初めての経験。ひとつ今でも印象的な思い出があります。例文や単語を必死に暗記したのですが、到着早々、空港にて年配の男性から「Enjoy yourself!」というよく知った言葉をかけられたのです。言葉が通じるか不安で仕方なかった私にとって、その一言はとても心強いものでした。このアーリントン訪問経験から英語がより好きになり、英文系学科のある高校へ進学、オーストラリア・メルボルンでの３週間の滞在も経験しました。

現在私は京都から離れた大学で、語学ではなく工学を専攻しています。高校までと違い、日常的に英語に触れる機会がぐっと減り、英語力の低下も痛感しています。しかし本来、様々な分野、多国籍の技術者とのコミュニケーションが必要な科学でこそ、英語は大切なツール。もう一度初心に帰るべく、専門の工学の傍ら、英語の勉強にも励んでいます。

平成 20 年度　訪問団参加
関西学院大学３回生　増田　晃子

大学では社会学と商学を専攻し、ゴスペルを歌うクラブに所属しています。

私の専攻は直接的に英語と関わりはありませんが、アーリントンにおいて得たことや感じたことは、今の自分に繋がっているなと実感しています。英語をもっと頑張りたいという気持ちや、アーリントン訪問団に参加したように、新しいことにどんどん挑戦したいというモチベーションは、私の原動力となっていると思います。去年の夏、アメリカのカルフォルニア州で１ヶ月間留学をしました。アーリントン以来二回目の渡航で、初めて一人で飛行機に乗って出かけました。語学力を向上させるというよりも、積極性や度胸が身につき、多様な価値観に触れ考えの幅が広がる経験が出来ました。

また、アーリントンでホストファミリーだった、ベッカと五年ぶりに日本で再会を果たしました。ベッカは今、長岡京市で英語の先生として働いています。１ヶ月に１回はベッカとご飯を食べたりお出掛けしたりしています。今もこのように親交があることは非常に嬉しいことです。

アーリントン訪問団のプログラムは現地における十日間だけでなく、半年に渡る事前勉強会から刺激的で楽しくて、私の大好きな時間でした。その時間を共有した仲間とは何度か同窓会を開き、今でも親交が続いており私にとって大切な存在です。

このようにアーリントンから帰ったあとも、私に良きモチベーションや大切な仲間を与えてくれたこのプログラムに感謝しています。

平成 21 年度　訪問団参加
同志社女子大学１回生　大垣内　詩織

この度は、姉妹都市訪問 10 周年おめでとうございます。この春から大学１回生になり、勉強はもちろん、アルバイトやサークル等、毎日充実した日々をおくっています。私がアーリントンを訪れたのはもう５年も前になります。中学２年生の春でした。元々英語が好きで、ホームステイなどをしてみたいと思っていた時に、この企画を知りました。早速応募をして、高い倍率を何とか突破して晴れてアーリントンに行けることになりました。行く直前になると、英語で上手く伝わらなかったらどうしよう、などと色々な不安が頭をよぎりましたが、そんな不安は一気にふっとびました。ホストファミリーは常に優しく接して下さり、私もジェスチャーを上手く利用して伝え合うことが出来ました。滞在中は学校で実際に授業を受けたり、州議事堂に行ったり、ショッピングをしたりと今まで経験したことのないようなことが体験出来、またホームステイをしたことで異国の文化を直接肌で感じることが出来ました。まだ中学生であるにも関わらず、このような経験をさせていただくことが出来て、本当に良かったと思っています。この訪問によって、外国人と話すことに抵抗が少なくなり、また今よりもっと英語でコミュニケーションしたいという思いも強くなりました。中学生でこのような素晴らしい経験が出来ることなんて他にないと思います。海外に行ってみたいけど英語が出来ないから無理だと思っているなら、ぜひ挑戦してください。間違いなく、素晴らしくて忘れられない思い出になることでしょう。

平成 21 年度　訪問団参加
龍谷大学１回生　八木　真由

私は、平成 21 年度米国アーリントン友好姉妹都市訪問団として、アーリントン市を訪問しました。実際に現地で生活をし、自分の英語でのコミュニケーション能力の力不足を痛感しました。そして日本に帰ってきてからは、学校での国際交流の行事などには積極的に参加し、学校で ALT をしていらっしゃるネイティブアメリカンの先生と仲良くなり、積極的にコミュニケーションをとるようになりました。大学生になった今も海外国際交流イベントに参加し、英語の実力を上げるため日々努力しています。中学生でホームステイをしたという経験が、今の私に大きく影響しています。携わって頂いたみなさまに感謝をいたします。

平成 21 年度　訪問団参加
広島大学２回生　出口　哲平

中学生のときにホームステイをする機会があるというのは、ほんとうに大きなことだと思います。自分自身にとってとても、とても大切な経験になりました。ホームステイをするという経験は言葉では伝えきれないほど刺激がありました。今でも鮮明に記憶に残っています。選考もあり、みんながみんな行けるわけではないですが、それでもこのプログラムを続ける価値は絶対あります。当時、将来海外と関わりのある仕事がしたいと、ぼんやりとですが夢を持ちました。高校を卒業した春休みに、一人でバックパッカーのようにヨーロッパを 18 日間旅しました。ユースホステルに泊まり、テレビや教科書でよく見る有名な所にいっぱい行きました。とても楽しい良い経験をたくさんすることができました。

そして大学に入った今ですが、英語が話せるようになりたいという思いはアーリントンに行って以来変わりません、そして今度、短期間ですが留学することになりました。アーリントンでの経験は今の自分に間違いなく生きています。

平成 22 年度　訪問団参加
京都成章高校３年生　谷山　美香

現在、私は大学受験を控えた高校３年生です。

私は、2010 年、中学２年生の時にアーリントン訪問団に参加させていただきました。参加することが決まり、事前の学習会では、一生懸命勉強しました。アーリントン高校やビショップ小学校での「文化交流」や、ホームステイ先での家族との思い出は、私にとって全てが宝物です。

今の高校には留学の機会が全く無いですが、大学進学後は絶対に留学したいと思っています。出来ればアーリントンにも立ち寄り、お世話になったホストファミリーに成長した私の姿を見ていただきたいです。

私は、アーリントンでのたくさんの経験を通して、いっそう英語が好きになり、もっと頑張りたいと思うようになりました。このようにアーリントンでの経験は、英語を勉強する意欲向上に繋がり、英語を話せるようになりたいと思うきっかけにもなると思います。

私は、１人でも多くの後輩に、この貴重な経験をしてほしいと心から願います。そして何より、長岡京市の関係者の方に同行していただけた事は、中学生だった私にとってとても心強く、安心して参加できました。この交流がいつまでも続きますように・・・

平成 22 年度　訪問団参加
西乙訓高校３年生　植月　謙

私は中学１年～２年の間にこの訪問団に参加させていただきました。現在、安倍政権においてもグローバル人材の育成が重要視されており、今年外務省の KAKEHASHI　PROJECT～THE BRIDGE FOR TOMORROW～と言う米国への訪問団に参加をさせて頂き、約２週間、ロサンゼルス、ヒューストン、グアムを回らしていただいて、各地で日本の魅力を伝えるプレゼンテーションを行いました。その訪問で私の人生観はがらりと変わり、将来は国際的な仕事に就きたいと思うようになりました。その訪問団に参加しようと思った根源にあるのは、アーリントン訪問団でした。アーリントン訪問団に参加する以前の私は、英語や海外に全く興味がなく、母から参加を勧められしぶしぶ申し込みをしました。すると運よく参加が決まり、どうしたものかと初めは考えていました。しかし毎週水曜日に英語の練習をしていくうちに英語が好きになっていき、早く出発したいと思うようになりました。そしてホームステイが終わると、海外に更に興味を持ち、もう一度行きたいと思うようになっていました。そんな私に大きな影響を与えてくれたアーリントン訪問団が今年 10 周年を迎えたということで、心からお祝いさせて頂きたいと思います。

平成 22 年度　訪問団参加
国際交流の盛んな大学目指して勉強中　伊豆　夏希

アーリントンを訪問してから４年。中学・高校で英語を学び、今も英語の学習を続けています。学校で英語を学ぶ中で、生きた英語を使う場面を想像することができます。それは、アーリントン訪問で得たものの一つです。海外へ行くだけでなく、アメリカの生活を肌で感じるという、かけがえのない経験が大きかったのだな、と改めて思います。英語を話すことができない私を、ホストファミリーが家族の一員として迎えてくれ、アーリントンの滞在をサポートしてくれたことは忘れられず、感謝で一杯です。言葉が通じず歯がゆかったこと、もっともっとコミュニケーションを取りたかったこと、話したかったこと、などの思いが消えることなく、今に至っています。私はアーリントンの訪問団の一員となり、たくさんの友達ができ、一生の思い出となりました。それは、これからもずっと変わらないことでしょう。

平成 22 年度　訪問団参加
立命館大学１回生　八木　剛至

私が姉妹都市交流としてアーリントンを訪れたのは、中学３年生の時でした。初めての海外経験であり今でも強く印象に残っています。それから４年が経ち、現在私は海外での学びも視野に入れつつ、大学で工学を学んでいます。英語を学び英語で学んだ経験は、私に活動的かつ国際的であろうという意思を起こしました。そして姉妹都市交流を通して出会った国内外の仲間たちの存在とともに、今の自分の原点となっています。

どんな大国同士の付き合いであろうと、国が一人ひとりの人間の集合体である以上は、人と人のつながりこそが国同士のつながりです。だから、学生時代に国際交流を行えたことは、素晴らしい経験だったと思います。

今でも、交流できる国内外の仲間がいることは、喜びであり、自分自身もアーリントンとのつながりを担っているという、大きな誇りでもあります。今後もこれらひとつひとつの繋がりを大切にしていきたいです。

平成 22 年度　訪問団参加
京都学園高校３年生　宗像　美月

一年間ほど中学校で学習した、特に得意でもない英語と、事前学習で学んだフレーズだけを頼りに訪問したアーリントン。一言発するだけで緊張し、一言理解するのにも一苦労。それでも、国境を越えて通じ合えた時の喜び、自国との違いを知った感動や驚き、視野が広がるという漠然とした感覚、これらを忘れることができなかった私は、３年後、10 か月のイギリス留学に出発しました。あれから必死に英語を勉強した甲斐もあり、留学生活では会話の内容も明らかに豊かになり、そこから新しい価値観に出会うことも少なくありませんでした。また、アーリントンではただ面白いとか、いいなあと思っていた「文化の違い」を、受け入れる難しさを痛感することもありました。

未知の経験をしてみたい、そんなシンプルな好奇心から応募したアーリントン訪問の経験をきっかけに、私はもっと知りたい、学びたいという気持ちを強くしました。そして学んだことは、また新たな経験につながる、そう考えるように成長できたと思います。それは今の私に、将来の私に、確実につながっていることを実感しています。素晴らしい経験をありがとうございました。

平成 23 年度　訪問団参加
嵯峨野高校２年生　八木　美沙希

私は三年前にこの事業に参加させてもらいました。まだ中学二年生であった私にとって本当に貴重な経験で、中学校生活のかけがえのない財産となりました。英語を通じて思いを伝え合うことの楽しさを知り、将来は世界を舞台にして働きたいと思うようになりました。そして高校に入学してからも、「エディンバラ語学研修事業 26 日間」に積極的に参加したり、英会話教室に通ったりと、この夢に一歩でも近づくために日々精進しています。私は、アーリントン事業で自分の夢を見つけることが出来、明確な目標を胸に今、毎日勉強に励んでいます。このようなきっかけを作ってくれたアーリントン事業に心から感謝しています。

平成 23 年度　訪問団参加
同志社高校３年生　出口　瑶子

私がアーリントンを訪問して一番に思ったことは、意思表示をしっかりしないといけない、ということでした。自分から何か言わないと相手は何もしてくれないので、はっきり自分の意見を伝えるということをこの訪問で学びました。今では、昔よりも自分の意見をしっかり相手に伝えることができるようになったと思います。私にとって、アーリントンの訪問は刺激的で、すごくためになる経験でした。

平成 23 年度　訪問団参加
紫野高校３年生　有井　美咲

私は、この姉妹都市プログラムでたくさんの夢をかなえました。初めて海外に行ったのがこのプログラムでした。そしてその時に長期留学に行くということが夢になりました。一年間アメリカで過ごしたということは、今の私の自信でもあり自慢でもあります。

この一年苦労したことのほうが多かったけど、今振り返ってみると楽しかった思い出のほうが先に思いつきます。たくさんの経験をさせてくれたこの姉妹都市プログラムに、私はとても感謝しています。留学を終えた今、私は進路選択に悩んでいます。将来はアーリントンと長岡京、アメリカをはじめとする世界と日本を結ぶ架け橋になりたいと考えています。

平成 23 年度　訪問団参加
西京高校３年生　木畑　総司

私は高校に入学して以来、ずっと英語のコミュニケーション能力の向上を図るために、たくさんの外国人講師の方達と会話をしてきました。というのも、私が現在コミュニケーション能力を向上させようと試みているのは、全て中学の時にアーリントンへ行き、そこで老若男女問わずたくさんの外国人の方達と片言で会話をしたことによるものです。なぜなら、その時私は『この程度の片言で軽いコミュニケーションをするだけでこんなに楽しいなら、英語を流暢に話せたら一体どれほど楽しいのだろうか』と現地で感じ、高校からは「文法」などのいわゆる英語の勉強をするのではなく、「会話」としての英語を勉強してグローバルに将来活躍しようと思っています。今こうして英語を嗜むようになったのも、アーリントンに行って異国間の交流の楽しさを感じられたからです。そう思うと、アーリントンに行くことで得るものは至極大切なことだと考えています。

平成 23 年度　訪問団参加
日吉ヶ丘高絞３年生　池野　栞

私がアーリントンへ行ったのは中学３年生でした。母親が英語に関わる仕事をしていて、自然と自分も英語に興味を持ちはじめ、学校でもらったチラシを見て「これだ」と思い参加しました。

このプログラムに参加し、アーリントンで自分の話す英語が通じた感動は一生忘れません。ステイしている間はとても充実した日々で、帰国後には、今までにない自信になりました。でも、一つだけ後悔したことがあります。それは自分の英語力に自信がなかったので、ホストファミリーとあまり話さなかったことです。この後悔を払拭したいと思い、一生懸命英語を勉強しました。高校も英語を専門的に勉強するコースがあるところに進学しました。私の高校ではオーストラリアへ３週間のホームステイと語学研修に行きます。その時のホストファミリーとは自分から話しかけ、今もフェイスブックで交流しています。

今年は大学受験です。大学でも英語を勉強します。アーリントンへの訪問が私の英語の原点です。

平成 23 年度　訪問団参加
関西大学２回生　上羽　一肇

経験は人を大きく成長させてくれます。私にとってアーリントンでの経験は、私がさらに英語に興味を持ち、将来は英語を生かした職に就きたいと思うきっかけになりました。アーリントンでは会話することの大切さを改めて学びました。会話は、私とホストファミリーや現地の生徒との関係を築き上げるための大きな手段であったからです。東日本大震災の直後の訪問だったため、私は震災後の日本の様子を正確に、かつ分かりやすく伝える必要がありました。私が言いたいことを英語で伝えること、そして、相手が言ったことを理解すること、この２つはほとんど英会話の経験が無かった私にとって、とても刺激的なものでした。現在、私は語学留学のためイギリスのバーミンガムに滞在しています。私はアーリントンでの経験が今回の留学の支えとなるだけではなく、私の将来の更なるきっかけになると考えています。

平成 24 年度　訪問団参加
西京高校２年生　川上　摩子

現在、私は英語教育に力を入れている高校で勉強しています。また、ESS 部という英会話の部活動に所属しています。私は英語を勉強し、英語で外国の方と話すことが好きです。それも、アーリントン訪問のおかげだと思っています。アーリントンでは、英語が通じたという喜びや異国の文化を知り、外国の方と話す楽しさを知ることができました。このことが、私が英語や異文化にも興味を持った原点になっています。

また、言語的なこと以外にも精神的なことも学べました。学習会で覚えたフレーズとわずかな中学生の知識で何とか意思疎通をし、友達を作ることが出来ました。これは、何とかなるさ！精神の原点になっています。おかげで、たくさんのことに挑戦出来ていますし、これからももっと世界に出ていきたいと思っています。

アーリントン訪問は、私の今や未来に良い影響を与えてくれています。このような機会を与えてくださった長岡京市、より良い思い出にしてくれた訪問団のみんなに感謝します。

平成 24 年度　訪問団参加
堀川高校１年生　中村　聡一郎

アーリントンに行ってから２年がたち、僕はこの春、高校受験を迎えました。そのとき、今の高校を選ぶ決め手のひとつとなったのが、海外研修です。僕の高校では、研修場所や内容まで自分たちで計画します。それを知って、僕はこの学校ならアーリントンでの経験が生かせると思い、この高校を最終的に志望しました。アーリントンで得たものをこの海外研修でさらに伸ばしていきたいです。

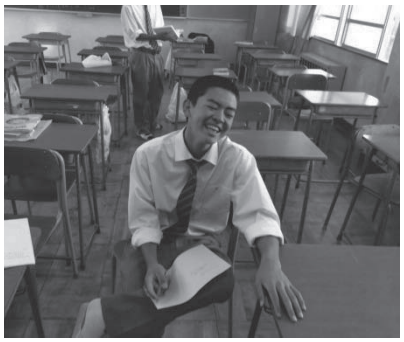
高校を卒業し、社会に出て海外で活躍するには、自分の意見を伝えようとする意欲が重要だと思います。これは二年前に得た大きな力です。そのことは少し前、家族で海外旅行に行ったときに実感しました。ホテルの人が何を言っているかは分かっても、そこで自分の意見を組み立て、それを相手に伝えるのには、ほんの少しの勇気が必要です。けれども、あの貴重な経験のおかげでその勇気を出すことができました。あの時までの僕だったら何もできなかっただろうな、と振り返りながら、アーリントン訪問が自分にくれた良い影響を振り返りました。僕は、将来世界で活躍するエンジニアになって、いろいろな国々の人々の生活を豊かにしたいと思っています。そのためにも、アーリントン訪問で得たこの力を磨いていきたいです。

平成 24 年度　訪問団参加
紫野高校２年生　小川　愛佑美

私はアーリントンの交流により、学んだことがたくさんあります。そのうちの一つは、意思を持つこと、伝えることの大切さです。日本では、「どっちでもいい。」や「なんでもいい。」といった言葉をよく使いますが、海外では YES か NO の二択で問いかけられます。私にはそれがとても新鮮でした。今までの私は、周りの意見に流されたり、意思を伝える勇気が出なかったので、自分を成長させる大きなきっかけになりました。

私は今、国際交流に力を入れている高校に進学し、今年の夏からアメリカへ長期留学をします。今の状況があるのは、アーリントンの交流で自信を身につけ、向上心を持てたからです。私を変えるきっかけをくれたこの交流にとても感謝しています。

平成 25 年度　訪問団参加
西乙訓高校１年生　佐本　寛和



長岡京市の学生訪問団に参加して、僕の中で大きく変わったことがあります。それは、英語に対する意識です。この事業に参加する前は、分からない単語があってもそのままにしていましたが、アーリントンに行った後では、単語だけでなく日本語訳の細かい訳まで注意するようになりました。それは、ホームステイをさせてもらった時、「もっと話せたら」「もっと聞き取ることができたら」という外国でしか出来ない経験ができたからだと思います。さらに、中学三年生で行ったので、大きな選択である進路にも影響を与えてくれました。そして、西乙訓高校で充実した日々を過ごしています。英語の能力は、まだまだ足りないので、二年生になるときに英語科に進もうと考えています。さらに、英検でも上の級を目指したいです。もしもう一度この事業に参加できるなら、参加したいです。

平成 25 年度　訪問団参加
西乙訓高校３年生　和田　みなみ

私は、一年間の交換留学でアーリントン高校に留学しました。アーリントンに初めて行ったのは、高校２年の春の 10 日間の訪問でした。自分が約半年かけて覚えた 100 の英会話フレーズがこんなにも使いこなせないものかと悔しい思いをしましたが、それを忘れさせる程、10 日間のアーリントンでの生活は、本当に楽しかったのを覚えています。

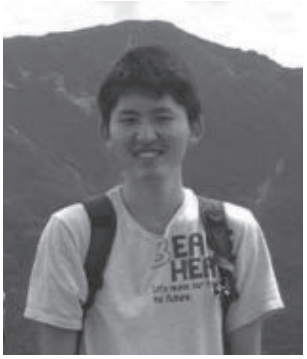
その後、私は一年間の留学に出発しました。しかし、それは 10 日間のあの楽しかったアーリントンとは違い、前半の生活は自分の英語が通じず、生活環境も違い、非常に辛いものでした。学校生活は後半から英語に慣れ、友達も増えてきて毎日が楽しくなり、特に中学の部活動から続けているテニスをできたことと、そのテニスを通じて友達ができたことが一番の思い出です。また、今まで漠然としていた自分の将来の夢をはっきりと描くことができるようになり、さらに英語を磨くことが大切だと感じたので、これからも英語を使って新しいことを勉強していきたいです。

平成 25 年度　訪問団参加
長岡中学校３年生　岩田　圭太

僕は平成 25 年に、中学２年生のときにアーリントンへ行きました。あれから１年たって、今は受験生です。将来学校の先生になりたいし、高校か大学で留学もしたいので、夢に向かって頑張っています。

留学したいと思うきっかけは、やっぱりアーリントンです。それまでは外国は少し怖かったし、外国人を前にすると緊張して、話すのはとても勇気がいりました。でも、たった一人でアメリカの家に泊まって、必死に過ごした日々のおかげで、全然怖くなくなりました。英語を話すことだけでなく、何か一歩を踏み出さなければならない時には、あの時の緊張と心細さを乗り越えたことを思い出すと頑張れます。自分に自信がついた体験でした。同時に言いたいことがちゃんと伝わらない悔しさもありました。次はちゃんと伝えられるように、英語を頑張りたいと思っています。

平成 25 年度　訪問団参加
西乙訓高校３年生　武田　玲翔



留学中の約 10 ヶ月間は、吸収することが多く、その経験は自分の大きな強み、財産になりました。自分の英語力や、日本の家族や友達のことなど、不安の多いスタートでしたが、ホストファミリーや学校の先生、アメリカの友人や世界各国からの留学生は、温かく受け入れてくれました。英語で思いを伝えること、アメリカ人の気持ちを理解することで、視野が広がり、物事を世界的な視点で見ることができるようになったと感じています。

日本をアメリカから見ることで、日本の文化や風習の素晴らしさを感じ、逆に問題点も見つけることができました。そして、アメリカならではの「自由」の良さに感心するとともに、不満を抱くこともありました。

留学は、楽しいことばかりではありません。最初は授業についていけない、友達ができないなどの壁にぶつかってしまい、前に進めない時期があります。しかし、その壁を乗り越えるのは自分自身であり、乗り越えなければいけないものです。そのための１歩を踏み出した時、自分が変わり未来が開けました。この経験は留学しなければできません。

また、留学で大切なことを学びました。それは「感謝」と「良心」です。些細なことでも、バスの運転手や店員などに「Thank you.」と言い感謝すること。そして、困っている人がいたら、自分が助ける、力になるという良心的な心。この２つは、これからも自分の中に深く刻まれ、残っていくだろうと思います。

留学することは、絶対後悔しません。自分が変わり、前向きに積極的になれ、主張ができるようになります。僕はこの経験を日本の家族や友人達に伝え、多くの人に英語の大切さに興味をもって欲しいと思います。１歩踏み出すチャンス。その１歩は将来を変えます。